

2025年8月10日

主日礼拝

①10:30 ②13:00

司会 ①辻井 崇志 ②ナバーロ ホアン

プレイズ Praise

黙祷/祈禱 Prayer

主の祈り The Lord's Prayer

聖書 Scripture

詩篇 Psalm 150:1-6

特別賛美 Special Music ヴィヴァルディ「グローリア」第3曲 Laudamus te

S. 子田佳里奈 A. 高橋真衣子 P. 漆間有紀

メッセージ Message 「Great Things He Has Done — だから私は歌う」

柴田順一牧師

祈禱 Prayer

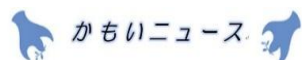
頌栄 Doxology

天にも地にも

祝祷 Benediction

(起立)

牧師



かもちニュース

◇ Welcome Home ! YC カフェは礼拝後にオープンします。

🍷 ハワイコナブレンド 🍹 アイスアールグレイ 〔各¥100〕

◇ 特賛ゲスト 子田佳里奈さん 高橋真衣子さん 漆間有紀さん 心より歓迎します。

◇ タウンニュース「心のエステ」8月号が受付にあります。どなたもどうぞ。

◇ デボーションガイド「リビングライフ」(¥700) 残り僅か。どなたも。

◇ 宮田農園無農薬ブルーベリー (1000 円/450g) 5階で販売します。

◇ ゴスペルフラ・メンバー募集中！チラシが受付にあります。

◇ 来週 8/17(日) 中高生クラス / 賛美しもべ会 / PA 奉仕者会②

◇ 礼拝献金/仕一献金/会堂献金等、入口の木製献金箱をご利用ください。

集会 & ミーティング 本日 10:30~ キッズチャーチ 4F 集合

本日 11:50~12:10 執事会 5F

アクティビティ 火曜 10:00~12:00 子育て広場~夏休み SP~5F

土曜 13:30~14:00 礼拝堂お掃除 4F 集合

主をほめたたえよ。その聖所で神をほめたたえよ。その力のあらわれる大空で主をほめたたえよ。その大能のはたらきのゆえに主をほめたたえよ。そのすぐれて大いなることのゆえに主をほめたたえよ。

詩篇 Psalm 150:1-2



「剣を鋤に変えよ」

国連本部の巨大な石碑に聖書の言葉が刻まれています。「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」(イザヤ書 2:4)。これは、世界大戦を終えた世界が、再び剣を取ることがないようにとの祈りと希望の彫像です。「剣と槍」は命を奪う道具、一方「鋤と鎌」は地を耕し、種を撒き命を生み出す道具です。

この預言の言葉は「終わりの日に」(イザヤ 2:2) という言葉で始まります。今週のタウンニュース「心のエステ」も、「祈りの音(ね)」と題した広島平和記念公園の「鐘の音」について。2700 年前のイザヤの預言を、世界唯一の被爆国である私たちは、戦後 80 年、広島地でも受け継いでいるのです。

平和記念公園に灯る聖火。そこには、「世界から核兵器がなくなるその日まで炎を絶やさない」といった趣旨の言葉が刻まれています。この灯は、単なる記念ではありません。それは私たちが過去から学び、未来に責任をもって歩むよう促す、命と平和のための警鐘です。「剣」が「鋤」に、「槍」が「鎌」に変わるのは、平和の神が一方的になされる奇跡ではなく、私たち自身がこの手で打ち直す行為の中にある平和と希望です。戦後の日本は、明日の平和を信じ、涙をもって焼け野原に鋤を打ち込むようにして歩み始めたのです。教育、文化、福祉、対話 — それらはすべて、新しい命を育てるための平和の道具でした。

そして戦後 80 年。今、私たちのまわりにある「武器」とは何でしょう。核兵器の存在はもちろん、分断、偏見、差別、沈黙、無関心もまた、私たちに傷つける剣です。国連の壁も、広島地炎や鐘も、単なる過去の記念ではありません。今日この「終わりの日に」生かされているあなたへ問いかけられているのです。「あなたは、あなたの手で、何を打ち直しますか?」。主は言われました、「平和をつくる者は幸いである」。平和は、理想でも概念でもなく、私たちの手の中にある選択です。その「幸い」は、祈りを込めて鋤を打ち込む者の手に静かに宿るからです。

今週の聖書通読【エゼキエル書】リビングライフ 8月号

10 日	16:1-14	捨てられたものが神の妻に
11 月	16:15-34	恵みを忘れた忌むべき背信行為
12 火	16:35-52	背信をやめさせるねたみのさばき
13 水	16:53-63	回復の恵み、永遠の契約
14 木	17:1-10	契約に忠実にあってこそ個人も国家も栄える
15 金	17:11-24	契約に忠実な新しい王
16 土	18:1-20	親の罪に倣わず正しく生きる
17 日	18:21-32	神のみこころは罪から立ち返って生きること